

てくてくときわ公園 歴史マップ



ときわ湖は、お米作りに必要な水を確保するために1698年（元禄11年）に作られた山口県内で最大のため池です。石炭記念館の展望台からは、ヤツデの葉の形をした入り江を持つ美しい湖を眺めることができます。



炭都・宇部の歴史を

今に伝える 日本初の石炭記念館 石炭記念館

かつて石炭鉱業の開始を契機として飛躍的な発展を遂げた炭都・宇部。やがて工業の主力は石炭から化学・建設資材・機械・金属等へと転換していきましたが、永年にわたって宇部発展の基盤となった石炭産業を後世に伝えようと、地元政財界と多くの市民の寄付によって1969（昭和44）年、日本初となる石炭記念館が誕生しました。

記念館のシンボルとなっている展望台はかつて炭坑で実際に使用されていた竪坑櫓（たてこうやぐら＝坑夫を昇降させ石炭を搬出する施設）を利用しています。地上37m（海拔65m）の高さから、瀬戸内海、九州、四国の山々、宇部の街並みを一望できる、雄大な景色を楽しむことができます。



石炭記念館

開館時間：9:00～16:50

休館日：年末年始（12/29～1/1）

館内には約3千点にのぼる貴重な機材・資料が展示されているほか、模擬坑道や採炭現場、さらには戦前の炭鉱住宅を復元した炭鉱住宅が再現されており当時の人々の暮らしがうかがえます。

また屋外には矢弦車（やげんぐるま＝竪坑のロープを巻き上げる機材）や坑内石炭運搬車、実物の蒸気機関車などを展示しています。

近くには宇部の歴史を表す彫刻作品、荻原守衛作「坑夫」（1907）も展示されています



常盤神社



飛上がり地蔵の東側に本土手を築きため池を造りました。流れ込む大きな川がないので、水が早くたまるように願って『水の神様』を、本土手の所にまつたのが始まりです。その後、常盤神社は現在地に移設されました。



棕梨権左衛門
顕彰碑



飛上り地蔵尊



1929年（昭和4年）の夏、雨が降らず、ときわ湖の水がほとんど無くなりポンプで水を汲んでいると、泥水の中から突然『お地蔵様の胴体』が飛び上がってきました！ たまたまその前に発見されていた頭部と合わせ、まつてあります。



常盤用水路



ため池の水を田に送るための用水路は、ときわ湖の本土手と切貫（きりぬき）の二ヶ所から流れ、恩田、草江、則貞、そして、梶返、清水川一帯のお米作りに役立っています。



てくてく ときわ公園歴史マップ



切 貴

常盤神社

顕彰碑

常盤用水路

彫刻野外展示場

ときわミュージアム本館

常盤橋

湖水ホール

東駐車場

公園東入口

白鳥湖

ときわレストハウス

公園中央入口

中央駐車場

モンキーランド

石炭記念館

飛上り地蔵

本土手

遊園地

公園正面入口